



◇第8号◇
平成29年5月
普及啓発委員会

プランター運搬作業に
従事するシルバー会員

藤枝市シルバー人材センター
ふれあいネット



静岡産業大学生 鈴木あかりさん作

花回廊 約3117m
ギネス世界一認定

世界一に

シルバー会員が協力

藤枝市が挑戦した「ギネス花回廊の長さ世界一」に、シルバー会員が協力して、花苗の養生やプランターの運搬作業等に活躍しました。

藤枝市では、13年にウクライナが達成した記録（約2847m）を破るべく、つなぐはな（2987m）の花列を目指し、県立藤枝北高などに苗の育成を依頼し、その育成された2万4千鉢の苗を、自治会・町内会、市内の小中学校、花の会など協力団体の皆さんがプランターに植えて大切に育ててきました。

そして、3月14日・15日に、蓮華寺池公園（一周約1480m）を2周するプランター5100個を並べた花回廊について、3月18日ギネス公式認定員による厳正な審査があり、**見事世界一に認定**されました。

生活支援
担い手養成講習会
活躍が期待される受講者



生活支援担い手養成講習会

平成29年度から、介護予防・日常生活支援総合事業に当センターが参入するため、この事業に従事する会員の講習会が、3月16日・17日の両日、35名の受講者（会員以外の一般市民15名を含む。）が参加して開催されました。

藤枝市地域包括ケア推進課の担当者及び当センターのケアマネジャーが講師となり、講習会が開講されました。

講習修了後に大井理事長から受講者全員に修了証が授与され、今後、介護保険制度の要支援者に対する支援業務への活躍が期待されています。

平成28年度 地区長・班長会の視察研修

空き家の適正管理業務や リサイクル事業などを視察

平成28年度の地区長・班長会の視察研修は、3月10日に地区長・班長26名、理事長ほか役員と職員10名が参加して、磐田市シルバー人材センターを訪問しました。



磐田市シルバー人材センターでの研修

磐田市S Cの概要

磐田市は、平成17年に近隣の5市町村が合併して、人口17万人余の活力ある都市です。

磐田市S Cは、本部事務所と豊田・福田・豊岡に支所を置いて事業を展開しています。

★ 空き家の適正管理

この事業は、磐田市S Cが県内初の取り組みで、空き家が放置され管理不全の状態を防止するために、磐田市と協定を結び適正管理の作業を推進しています。

★ 自主事業として

リサイクル事業など

衣服類や手芸品などのリサイクルバンク通称「マガモ」は、人気があり利用者からも喜ばれているということです。

そのほか自転車のリサイクル・刃物砥ぎ・ふすま障子の張替えなど、自主事業で成果を上げています。

〔視察研修後の感想〕

空き家の管理対策や、リサイクル事業など、会員の皆さんが

地域の中で連携しながら、活躍されていることなど、当センターのこれからの取り組みに、大変参考になる視察でした。

藤枝西地区の班長会を開催

会員の交流を深めたい

藤枝西地区は、10班で構成されていますが、会員の集まる機会がないことから、この班長会を皮切りに、地区内の会員が顔見知りになり、連携して活動できるようにするため開催された。2月24日に開催した班長会には、班長6名と松浦事務局長・



藤枝西地区班長会議

向島理事が出席しました。始めに、野川地区長からの挨拶があり、そして局長、理事からの事務的な報告の後、班長の皆さんが自己紹介を兼ねながら、それぞれの意見や地区内の話題などについて話し合い、有意義な班長会が和やかに行われました。

〔話し合い内容〕

- ・ 班内の会員でも、なかなか顔見知りになれないので、仲間が集まる機会を作って欲しい。
- ・ 会員の少ない班は、隣接の班と統合したらどうか。
- ・ 要望の多い植木剪定の講習を増やして欲しい。
- ・ シルバーの仕事をもっと詳しく知りたい。
- ・ シルバー会員の入会を勧めるためにも、会員のコミュニケーションが必要だ。

班長会を開催して

地区長 野川 勲

シルバーの仕事のことなど、会員同士の情報交換は大切なことであり、今後、地区会などを開催して、会員相互の交流が深められるように計画したい。

会員からの投稿

三つ子の魂百まで

(青島北 案山子)

私には、物心ついたところより続けていることがある。

それは、70年来、途絶えることのない習慣で、就寝時には必ず身近に翌朝、起きた時に着る着替えを用意することである。

過去をたどれば戦時中、空襲があつたところから始まる。

灯火管制下、暗い中でも避難する時に、迷わず行動できるよう、持ち出す物と着替えを枕元に用意するよう、母親から躰られたからだと思う。

ちなみに、避難する時の母と私の格好は、二人とも防空頭巾をかぶり、母は弟を背に、布団を丸めて肩にし、私の雑囊の中には、いつも仏壇の位牌とにぎりめしが入っていたと記憶している。

今も続いている私の行為に、妻は何も言わない。

趣味【えんぴつ画】のこと

(岡部 アルバトロス)

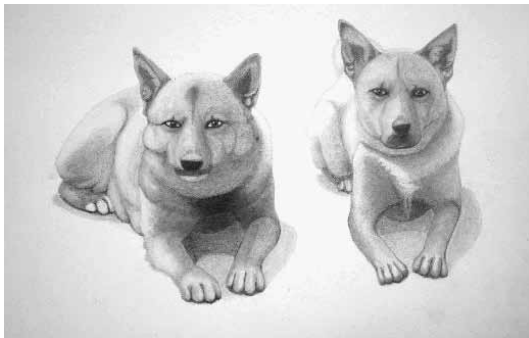
5年前、公民館で開催された「鉛筆写真実画」の入門講座を受講。その後、有志を募って自主講座を立ち上げ、入門時の先生に、引き続

き指導を頂いている。

使用する鉛筆は7Hから7Bまでの16種類。これを駆使して、「立体感」「質感」「光の演出」を鉛筆のムラを失くす事によって、如何に際立たせるかで、絵の出来栄えが左右されるという。

しかし、未だ道半ばである。画題は風景・人物・動物等多岐に亘るが、手先を使うので、ボケ防止には最高のリハビリになるのではと思っている。一緒にやってみませんか。

掲載の絵は、今は亡きわが家の愛犬親子で、懐かしさも手伝い、写真を基に再現したもの。



今は亡きわが家の愛犬親子

卓球と囲碁と

(大東町 栗田 健吾)

ラケットを買って、本格的に卓

球を始めたのは、18歳位になってからで、もう65年も前の事になります。

18の頃は科研製薬(当時は科学研究所・旧理研)で働きながら夜学に通っていました。

働きながら学校に来る仲間と卓球に興じたのをきっかけに、会社でも卓球部が設立され、各種の大会に出場していたが、試合になると補欠選手に甘んじなければなら

ない存在でありました。しかし練習は毎日、仕事前の一時間、昼の休憩時一時間、仕事が終わり5時から二、三時間と、卓球漬けの毎日でした。

そんな毎日に、ふとしたきっかけで、白と黒の石を並べて陣取りゲーム、囲碁に目覚めることになったのです。

会社の上司と毎日のように白黒の闘いをするようになりました。

それも丸く、くり抜かれた厚紙に、一方はインクで色を付け黒石とし、ダンボールの碁盤を作り、卓球の合間に並べては、どんどん腕を上げていったのです。

卓球の白球を追いながら囲碁の碁盤を想像し、シチョウを仕掛けたり、半目負けた場面を思い出したり、詰めの甘さが敗北に繋がったりしたものです。

悔しい手合い、勝負事にはあまり向いていない自分でも、卓球の「動」と囲碁の「静」は生涯続け

られる、趣味なのかなと、最近になって気付かされた気がします。馬齢を重ねて今年は86歳になります。

まだまだ世に憚って生き、楽しい事も、辛い事も味わってみたいそんな気分のこの頃です。

役員の企業訪問

毎年恒例のシルバー人材センターがお世話になっている市内170箇所の事業所等への、新年のあいさつ回りを本年も行いました。

理事・監事役員が二人一組となり、訪問先では社長さんや担当職員の方と面談し、日頃のお礼や、シルバー会員の就労状況を尋ねた。

概して会員の仕事に関しては好評で「良くやってくれている」と言うお話が多く、「正規の若い社員の手本になるようなところもあつて大変助かっている」「会社運営に大助かりしている」などという最高の賛辞も頂いたりした。

就労している会員が真面目に誠意を持って就労していることが垣間見られて、役員一同も安堵しました。

本年も会員として多くの利用者から感謝される就労に努めて頂きたいと思ひます。

事務局・互助会 便り

ハイキング部の歩み

部長 澤本康逸

ハイキング部は互助会発足と同時の平成7年8月に誕生し、21年の歴史を刻みました。

設立の初代部長は堀江さん。そして杉森さん、大沼さんと続き若輩の私は4代目となります。部員の中には、発足当時から、元気な人も数名おります。その中に80歳代半ばの女性が複数おり、発足当時は50人以上の部員が活発な活動で大変盛況であったと自慢され、ネジを巻かれます。しかも今計画されているハイキングに何時でも積極的に参加され、参加者全員から羨ましがられる存在であります。年齢を重ねても年を取らない生き方をされる先輩に、これぞハイキングの神髄かと、見習う所が沢山あります。

年間の行事は、まず春の梅見、4月の桜の花見総会、夏期は緑の山野ハイク・清涼の水辺のウォーク・高

原や奥深き里の温泉での暑気払い・錦秋の紅葉狩り等一年を通しハイキングの醍醐味は尽きません。勿論メインイベントは、日本百名山の筑波山・乗鞍岳・谷川岳天神平・大台ヶ原などの一泊旅行で心に感動を刻み思い出に残る場面が沢山あります。従って現在も続いております。



戸隠高原 鏡池の風景に感動の部員たち

私たちハイキング部は、部員の体力に応じた無理のない計画を立てて楽しく安全な活動を基に「自然に親しみ、出会いと感動を求めて」日常生活の中で「心の豊かさ」を求めて活動しております。

お知らせとお願い

安全標語の募集

昨年の安全標語募集は、多数の応募を頂き、ありがとうございました。本年も6月末日締切で募集します。詳しくは「事務局だより」をご覧ください。

グラウンドゴルフの開催

会員の親睦を図る目的で、シルバークのグラウンドG大会を、10月下旬に予定しています。多数のご参加をお待ちしています。

シルバー広報誌への原稿募集

「シルバーふじえだ」及び「藤薫」の記事を募集しています。

◎会員の感想や就業の体験談

◎互助会の感想・体験談

◎短歌・俳句・川柳、趣味

その他の原稿も、800字以内でシルバー事務局へお届けください。

掲載分に対し、記念品を贈呈します。

オモチャなど寄付して！

病児保育用の玩具や子供用布団が不足しています。戴けるものをお持ちの方は、事務局にご連絡ください。

編集後記

今号の「藤薫」は、如何でしたか？皆さんより5件の投稿を頂き、紙面の関係から3件の掲載となりました。引き続きご協力をお願い致します。

昔から良く知られた言葉に、「子供叱るな、来た道だもの。」

年寄り笑うな、行く道だもの。

来た道、行く道、帰り道。

これから通る今日の道。

通り直しの出来ぬ道。」

と……。人生穏やかに前向き思考で行くことが、長寿の秘訣なのだそうです。

更に、「老人ホームは、お洒落で二枚目なお爺さんを探して居るそうです。素敵なお爺さんが居るだけで、お婆さんたちが、皆良いお婆さんになりますから」と……。お爺さんも、お洒落で元気に過ごしたいものですネ。

また、男女ともに平均寿命は年々延びていますが、健康に過ごす事が大切。そのためにも仲間を作り、好きな趣味をやり、笑って楽しく過ごす事が長生きの秘訣とか……。

「平均寿命っていうと、めでたいけど、そこまで生きたら覚悟しろってことでしょう」と……。前向きに楽しく健康で過ごしたいものですネ。

普及啓発委員長 大島 靖之